



<重点目標> さかせよう 東っ子の花

東っ子の花

平成27年 10月6日
御前崎市立浜岡東小学校
学校だより No. 6

「校長先生、おはようございます。」



9月のある朝の立哨指導で、1年生の男子から明るく元気な声が届きました。反射的に、私も「〇〇さん、おはようございます」と返しましたが、その後、何とも言えない嬉しい気持ちがじわじわとこみ上げてきました。「おはようございます」と交わすあいさつは、お互いに気持ちのよいものですが、「校長先生」と一言つけたあいさつは、さらに嬉しいものでした。

私は、立哨指導の際、「あいさつ、プラス、何か一言」を意識して行っています。「〇〇さん、いいあいさつだね。元気だなあ」、「今日一日頑張れば、明日はお休みだぞ」とか、遠くから歩いてくる子どもたちには、「毎日頑張って歩いてくるね。すばらしい。」などと、一言添えることで相手とさらに近づけるのではないかと思います。しかし、それらがどこまで子どもたちの心に届いているかどうかは分かりません。今回、一言添えたあいさつをしてくれたこのあいさつで、「プラス一言」の大切さを身をもって実感することができました。

あいさつは、その子その子で違って当然です。まずその子の性格的なものが一番現れます。発達段階でも違います。またその日の体調などで声が小さかったりすることもあるでしょう。大きな声の子もいれば、小さな声でもしっかりとした言葉で返す子もいます。また、声はありませんが、私と目を合わせて会釈をしていく子もいます。私は、その子その子にあったあいさつでよいと思っています。要は、互いに気持ちが通い合える瞬間となっているかどうか大切なのではないのでしょうか。

現在、第3ステージ「協力の花」として、「みんなであいさつ」に取り組んでいます。「そろってあいさつすることで、みんなで学校生活のリズムをつくろう」が、そのねらいです。学校では、1日を通してあいさつする場面が数多くあります。朝、授業、掃除、給食、帰りなど、その場面でそろってあいさつをすることで、互いの気持ちが揃い、集中して活動に臨むことができます。9月の1ヶ月の取組で、教室など校舎内の至るところで元気のよい声が聞こえています。始めと終わりの揃ったあいさつで、授業や活動がけじめのあるものになっています。

保護者の皆様また地域の皆様。是非本校の指導と足並みを揃え、あいさつを通して子どもたちとの関わりを深め、また励ましていただければ幸いです。

校長 村松 敏男

楽しいお祭りに・・・

地区祭典が近づいてきました。子どもたちはとても楽しみにしています。学校から祭典参加についてお便りを配付させていただきました。地域の一員として活動する中で、地域の文化、ふれあいのよさ、マナー等を学ぶよい機会と考えております。交通安全、飲酒・喫煙の禁止をはじめ、子どもたちが約束やマナーを守って楽しく祭典に参加できますよう、御家庭でも御指導いただきたいと思います。



チャレンジ展

御参観ありがとうございました



2015年の夏・・・子どもたちがチャレンジした成果が感じられたチャレンジ展。

各学級での発表会や展示見学、ペア学年への手紙などを通し、「自分のがんばり」に自信を持った子、新しい「友だちのがんばりのよさ」を発見した子がたくさん見られました。参観された皆様からも、たくさんのお褒めのカードをいただき、感謝申し上げます。

授業研究のひとこま

本校では、授業研究として算数科を研究窓口教科とし、『「できた」「わかった」という学びの実感を味わわせる授業づくり』をテーマとして掲げ、日々授業改善のあり方を研究しています。

9月29日（火）には、常葉大学大学院の黒澤俊二教授をお招きし、研究会を行いました。

全職員参観の研究授業として、6年2組：算数「速さ」の授業を紀藤教諭が公開しました。

紀藤教諭は、「体積」か「速さ」のいずれかを授業公開することで悩んだ末、子どもたちにとってハードルの高そうな「速さ」を選びました。より工夫した授業づくりを通し、子ども達が実感をもって「できた、わかった」と言える授業を目指しました。参観後、黒澤教授の感想を紹介します。

班で協力して考える「意見交流」の中で「ああ、そういうことね!」「わかった、そうだったのか。」と教え合う・学び合う姿がたくさん見られた。お互いの考えが「じわじわ」伝わっていく班が多かった。すてきな子どもたちですね。



「今日の課題がわかったぞ!」



「分速ってことは、1分間あたりに・・・」

学びの実感を目指して



友達を納得させる説明を・・・



「えーっと、その考え方、どう表現すればいい??」